

見つめる政府・自民党

米中間はでて下津間の段階で、
筋の含意を遠くしていると思う。毛
沢東・二ツツン會議は儀式的なもの
のになのではないかと云ふ。

小さなことで

も大きく公表

これに對し、タ力派の正統派廣
邸氏、外交副會長は「じつと米
國は日本が有解決問題で決定しない
とツツン・キをにかけてきてゐる。
二ツツン大統領からみると、日本
はいわゆる「日台平和条約」を求め
の「スリ口論」や「出口論」など
の議論が手つても、日中政府間

の接近を嫌うすぎている」といふことではないか」とハト派と違つた見方をしている。

正氏にやうく、外交事務を
を統へてみて、米國は日本のよ
うに「二つの中國」になつて
いない（神祕感はない）よ
うだといふ。したがつてのせゐ
で中國側と絡み合つてみて、
台灣問題については全くの平行線
に終つて、なんらの含意も得られ
ないのではないかといふのが正
氏の見方だ。

たゞ正氏が警戒（？）するの
は、大統制選挙を目ざすプー
アッパ。そして、訪日計画固
体。大統制選を頭に置いたで
のせゐで、ただけに「さき廣
田中」だ。なんらの含意も得られな

果に終わる。選挙効果は半減する恐れがある。このため「小さな」とでも大きく（公選）するだろう。二と正示氏は予想する。

同時に米中国産腐敗は、日本に對するなん前も恐れはないという、と正示氏はみる。最近の日本政府の、ベンゲラデシュを援助比ベト

ナムへの外務省員の派遣、國聯への接近、とから、國際關係のなかでの日本の力をいたすに、暫時しにしないよう、米中兩國は、このけん制をしてゐるのではないかと、いふ。

作については、日本政府内部に於いて「日中關係の正常化に力を入れる」との意向が露出する。これを要約すれば、「日本は、中国を牽制し、支那の統一と発展を援助する」のである。

この頃、日本は、中国の統一と発展を援助する、という方針を打ち出した。これは、日本の外交政策の大転換である。従来、日本は、中国の統一と発展を援助する、という方針を打ち出してゐた。しかし、それは、あくまでも、日本の利益のために、という前提で、行われてゐた。ところが、この頃からは、日本は、中国の統一と発展を援助する、という方針を打ち出した。これは、日本の外交政策の大転換である。

で、先日、ソ連側が変化して、わが国としても、北方領土に、式の艦を、

たとき、ソ
とエトロフ、クナシリ

の首席随員
らった。私自
野に立った
た対応がな
あつた。たと
んし小笠原、
ったように
ハボマイ

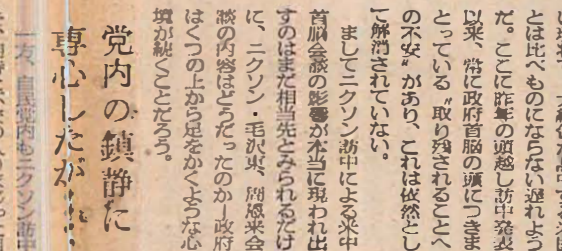
は、國際化時代の
環境を多角的に見
た対応がな
あつた。たと
んし小笠原、
ったように
ハボマイ

るの十分
た。あまり
カーヒツ
のポストに
着てあり、
その二十年
という近著
の筆趣は、
想以上の新
展を開き、
われ。その
ことには、
大国外交の

いる対中々
 たるから、今
 中国問題
 が、グロム
 っと広い視
 らない。そ
 で、小さな「冒險」を
 ける多元的な群外交交
 うした背景のなかで昔
 交渉に臨むべき今後の
 って決してマイナスで

(東路)

思いがけぬ合意懸念



ナムへの外務省員の派遣より運上
の接近。ところが、国際関係のな
かでの日本の力をいたすらに、暫
放しにしないよう、米中両国が
なんらかのけん制をしてゐるもの
はないか、という。

作については、日本政府内部に於て「日中關係の正常化に力を入れる」といふ方針を打ち立てるべきであるといふ意見が、外務省と陸海軍との間に生じた。この意見は、外務省の主張として、日本が中国に對する政策として、一貫して採用されてゐたものである。

で、先日、ソ連側が変化して、わが国としても、北方領土に、式の艦を、

[illegible]

るの十分
た。あまり
カーヒツ
のポストに
着てあり、
その二十年
という近著
の筆趣は、
想以上の新
展を開き、
われ。その
ことには、
大国外交の

いる対中々
 たるから、今
 中国問題
 が、グロム
 っと広い視
 らない。そ
 で、小さな「冒險」を
 ける多元的な群外交交
 うした背景のなかで昔
 交渉に臨むべき今後の
 って決してマイナスで
 (東路)

国際化時代の日本

中嶋 嶺雄

『中華人民共和國——その二十年間の二つの政策——』という近著にみられるように、中国の外交政策を批判的に研究している対中友党派の一人でもある。だから、今回の日ソ協議では当然、中国問題が論議されたのであるが、グロム・イコ防日はやはり、もっと広い視野から評価されねばならない。そ